

フリー刊行風 ④〇六 (現場) からの

昭和生まれにとりて、盆明けから朝晩冷え込んでくる体験を重ねたが、近年の夜まではやだるような空気には順応できていない。歌

手の斎藤和義さんの「小さなお願い」の歌詞の中に「いつか」「そのうちに」は、明日が来る事は当たり前だと思っていた日常が新型コロナウイルスによって、「何もできないうちに人生は終わる」のでは、との不安にさせる。「そのうちに」は使い慣れた便利な言葉だ。約束も強制もせず何気なく安易に使ってしまっていたが、ワクチンの劇的効果で、一瞬にして「平穀なあの時」に戻って、残されたこれから時の事を呑みたいものだ。

戦後最悪の経済状況の中で、取り組む意識改革が求められている

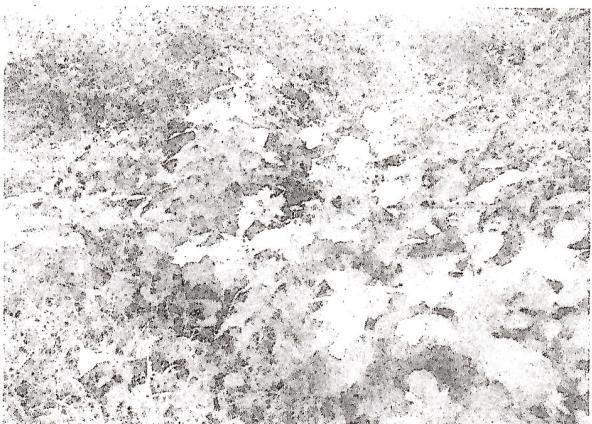
速報値は前期比77.8%の減、年率換算で27.8%となり、これがが戦後最悪のマイナス成長などの内容だった。今年は新型コロナウイルスの影響で大きな落ち込みは予想していたが、来年以降も、

回復の見通しはたたず、回復は3年以上かかりそうとの経済専門家の予測も多い。この事態に、地域の基幹産業関連、サービス業などが持ちこたえられるのが心配になってしまった。倒産の情報も、

負債額の大きな倒産の情報しか得られず、小規模な地域観光関係の倒産・休業・廃業の事態は闇の中だ。

品開発の動きの情勢が、伝わってくる。これまで観光が蓄積した宣伝方法では、この厳しい現状で成果を上げるにとほ困難なのは誰もが認識しているはずだ。

ラは負けなければ勝だ」と。歴史的にも、重装備の大部隊が、奇襲を多用した小部隊に手を貸すた、ベトナムの戦いは、鮮明に覚えてくる。今回の事態を悲観せずに、生活様式の変化に対応した新頭文字



自生する「フヨウ」。冬に地上部は枯れ、春に新たな芽をだす一日花。長期間にわたって毎日次々開花。着目したい花でもある。

に「我々は祖先から地球を受け継いでいるのではない。子ども達がう借りているのだ」との教えは、現役世代が負う責任そのものだ。この素晴らしい自然環境

境を、どんな意味を話を
たせて訪れる人を懸念す
させるか。もう一度、
地域に問うてみてはどう
うだろうか。

(信州地域社会フロー
ラム会員・白馬村森上